

奈良・薬師寺

- 1 所在地 奈良市西ノ京町
- 2 調査期間 一九八八年(昭63)十一月～一九八九年一月
- 3 発掘機関 奈良国立文化財研究所平城宮跡発掘調査部
- 4 調査担当者 代表 町田 章
- 5 遺跡の種類 寺院跡
- 6 遺跡の年代 奈良時代～近世
- 7 遺跡及び木簡出土遺構の概要



(奈良・桜井)

薬師寺の伽藍復興計画の一環としての回廊の再建に伴う事前調査で、西面回廊のほぼ中央部を対象に行なった。薬師寺回廊は当初、単廊で計画され、その後、複廊で完成したことは、すでにこれまでの調査で明らかにされており、今回も同様の状況を確認した。回廊の遺構は、礎石はすべて抜き取られていたが、単廊については西南入隅から数えて一一間目から七間分にあ

たる礎石据え付け掘形一〇箇所、複廊は中央柱列と東側柱列の合計一四箇所の掘形を検出した。また今回の調査のもうひとつの目的であった金堂と西面回廊をつなぐ軒廊の有無については、金堂に向かう東西方向の基壇、雨落溝等の痕跡は全くなく、軒廊は当初から存在しなかったと判断される。出土遺物には薬師寺創建の軒瓦を始めとする大量の瓦、少量の土師器・須恵器がある。

木簡が出土したのは回廊基壇の西縁に沿って流れる南北大溝からで、伴出遺物には近世陶磁器がある。木簡は二点出土したが、釈読できる一点を掲げた。

8 木簡の釈文・内容

(1) ・「タヘンヲロカニ」

・「セ□ンチサ」

96×16×1 011

9 関係文献

奈良国立文化財研究所『昭和六三年度平城宮跡発掘調査部発掘調査概報』(一九八九年)

(森 公章)